

タツク基地訪問記

北極石油株式会社業務部長

田中 良樹

カナダ北極・ポーフォート海での石油開発計画に参加することになった北極石油株式会社。本紙第三十五号既報では、今年の七月、浜口社長をはじめとする一行が一週間にわたってカルガリーとポーフォート海をのぞむ石油開発基地トウクトヤクトウツクを訪れた。以下は、この視察に加わった同社田中業務部長の報告である。

赤道を中心とした世界地図を見慣れているわれわれにとつて、北極というのは地球の果てであり、せいぜい探検の場所というイメージしか湧いてこないのも無理からぬことであろう。しかしながら、北緯七十度以北の地域は、今、有望な石油の宝庫としてクローズアップされてきた。

陸上油田からはアラスカのノース・スロップ、ソ連のチュメニなど、北緯六十〜七十度の地域で石油の生産が始まっており、また海上からは北緯六十〜六十五度の北海で生産が行なわれているように、

世界の石油開発は今や極点に向かって進みつつある。この趨勢にわが国としても官民挙げて参画すれば、わが国における将来のエネルギー源の安定確保に大きく寄与するであろう。

このような使命と期待を負って、石油公団および民間四十四社の出資により、本年二月、北極石油が設立され、カナダのドーム社のプロジェクトに参加することとなった。相手方のドーム社は、アルバータ州のカルガリーに本社をもつカナダ民族系石油会社で、アルバータ州、サスカチュワン州、ブリティッシュ・コロンビア州などで陸上の資源開発を行っているのみならず、北極海域のポーフォート海、北極海諸島、東部のニューファンランド沖、ハイバーニア海域等、幅広い探鉱・開発活動を展開しているカナダの有力企業のひとつである。最近では、ハドソンス・ベイという、やはり歴史の古い名門開発会社を傘下におさめ、世界の石油業界に話題をまいたばかりである。成田空港からカナダの太平洋岸バンク

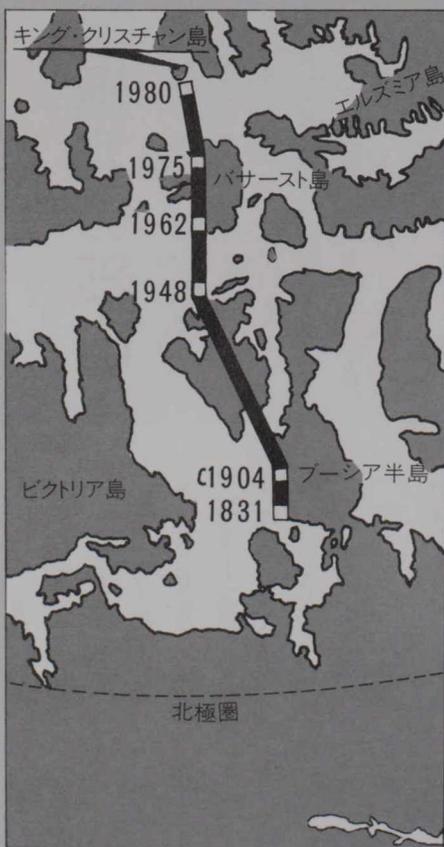
両極のうち、北磁極は現在、地理上の北極点から南へおよそ千四百キロ、カナダ北極海諸島のキング・クリスチャン島直下に位置している。しかし一八三一年に初めて計測されたときは、それより約八百キロ南南東の地点にあった。磁極は、秒単位、一日単位、そして年単位で移動しているのだ。

北磁極の本格的な探索が始まったのは、一八一八年に英国海軍が北西航路発見のための探検隊を派遣してからである。そのときイサベラ号とアレクサンダー号を率いたジョン・ロスは、それ以後も探検を続け、その途中の一八三一年六月一日、ブーシア半島西岸で北磁極を「発見」した。一本の絹糸で水平につるした磁針は、何の方向性も示さなかった。伏角を計ってみると、八九・五九度であった（伏角九〇度の地点が磁極）。北磁極は彼がその位置を確定しようとしている間も移動してい

たので、ロスではできれば日変化、年変化を調べたかった。しかし計器や物資に限度があり、早々と調査を切り上げざるを得なかったという。

一九〇五年に国立観測所が創立されるとともに、カナダにおける磁気調査は連邦政府が担当することになった。その後四十年の間、C・A・フレンチ、R・G・マディルといった磁気専門家たちが、カヌーで川を下り、北極監視船に乗って極北に達し、磁極を追跡続けた。こうした調査の結果、北磁極がおよそ北に向けて移動しているのが判明した。また北極における磁場の配置は、軍事的にも民間航空輸送の観点からも、関心の的になった。

磁極の調査はその後も続けられ、特に一九四八年にレゾリュート・ベイ（コーンワリス島）に磁極観測所が設立されたからは、常時観測されるようになった。



北上する北磁極